

学校点描

小学校運動会で「中学生の手伝いが素晴らしかった」と、H小の教頭先生から電話をもらいました。

《M中学校》

NO. 4 H27. 6. 4

担当：教頭

先月に、町内小学校の子ども達と中学校の生徒会役員が一同に介して『子どもサミット』を実施し、そこで今年度の各学校の児童会、生徒会の取組などを発表しました。参観していた教育長さんからは、後日、中学生の小学生に対するサポートの姿が素晴らしかったとお話をいただきました。部活動等で時間の無い中でしたが、わずかな時間を集中して、いい準備を進めて当日を迎え、いいサミットができました。

国語の漢字についての基礎的な力を固めるためトライテストを学級対抗の形で実施しました。結果は、1位が3C、2位が1A、3位が2Bでした。29日の全校集会の中で、賞状とトロフィーを学級委員長長のK. Tさんが、学級代表に渡しました。トロフィーは、少しでも意欲的に取り組んでもらいたいという願いから、校長先生が私費で購入し寄付してくれました。テスト勉強期間中、町バスを待っている生徒の中には、停留所でトライテスト勉強をしながら待っている生徒の姿もありました。「がんばってるね」と声をかけると、「絶対にわたしのクラスが優勝します。」と答えます。今回は、数学に挑戦してもらいます。こちらも、家庭での時間をどのようにテストに割り当てるかが大切になるようです。

余暇を考える

昨日の放課後、町の商工会議所青年部の若者達10名が来校し、2階2年生トイレ周辺から体育館入り口付近にかけて壁のペンキ塗りを行ってくれました。当初は、17時から18時という予定でしたが、終わってみれば大幅に時間を延ばして作業を行ってくれました。お蔭で、手跡や黒いこすれた後で汚れていた壁面が、真新しい姿になって甦りました。

リーダーの高木さんに聞いてみると「6月は商工会の日ってあるんです。数年前から、青年部みんなで出身中学校であるM中学校の何か役に立つことしようと決めて、以来さまざまなボランティアをしてきているんです。ペンキ塗りの他には、砂利を敷き詰めたこともありました。みんな40歳前で、全員がM中学校卒業生です。」と教えてくれました。

作業がようやく終了し、きれいに塗装された壁の前で、まだまだペンキの臭いが充満していましたが、10名に集まってもらい、学校代表として感謝の言葉を言いました。

「仕事を終えた後、わざわざ集まって、ペンキを塗ってくれたみなさんのことを中学生に話した時、どんな反応をするか楽しみなんです。今年度の学校の目標は、将来、町に貢献する生徒を育てるというものなんですよ。」と、私が話をすると、10人の若者たちは、一応に「へえ～」なんて声をあげました。

古代ギリシャは奴隷制社会で、仕事をするのは奴隷であり「市民」と呼ばれる人々には「労働」がありませんでした。「市民」にとっては毎日が「暇」だったので、古代ギリシャには「労働」という言葉すらありませんでした。ですから、「労働」のことを「暇なし」と言ったのです。

今は、「余暇」という言葉は労働にあてた他の余った時間という意味で、古代ギリシャの「暇」程の積極的な意味はありません。「暇」という言葉を使うと、どこか後ろめたい気持ちすらしてしまいます。でも、「暇」とは、自分が持っている自由な時間の余白の部分と解釈すると、この余白の時間に価値を見出すことが大切な時代になったように感じます。特に、大人にとって、この余白の時間をどう生かすかが、人生の豊かさに関わってくるようです。と同時に、子育てにとっても、余暇の時間における教育はとても有効です。

地区総体に向けて、休日返上で忙しい中学生ですが、小学校の運動会に合わせて、部活動を停止したのも、その余暇の時間の利用についてひとつのきっかけになればという思いがあります。

以前は、どの家庭でも地域でも、子どもに「遊び方」や「社会道徳」、「人間関係づくり」等の価値をしっかりと身につけさせていました。これからは、学校での出来事や行事などをチャンスに、子どもと学び合う、それが保護者にとっての“余暇の時間の活用”なのかもしれません。部活動の送り迎えにだけ使うのではなく、車内でじっくり話す、いやじっくり話を聞く、そんな“余暇の時間の活用”は、今しかできない時間なのです。

余白の時間を、母校のペンキ塗りに使ってくれた青年たちの話に戻ります。後片付けをしながら青年たちは、かつての慣れ親しんだ校舎を、しゃんしゃんと歩いていきます。2年生の教室前廊下を通りながら、「え～2クラスになったんだあ。俺らのときは、5クラスから6クラスだったのになあ」なんて、懐かしそうに話しています。全てが終了すると、会議室前に掲示した、各町内の小学校のたよりに目を輝かせて読んでいました。

「何小学校出身？」と私が聞くと、その中の一人が「A 小学校です」と答えます。

「俺の子どもは、今、小学3年生で、その下の妹は年少なんです。なんとか、A 地区を昔のような活気のある地区にしようとがんばるつもりです。」

青年たちの余暇の時間は、『中学校に貢献したい』、『町に貢献したい』というものでした。今年の学校の目標を体現してくれているのが、この青年たちなのかもしれません。

「お～い。ラーメンでも食べて解散すっぞ！」高木さんの声が、生徒の誰もいない校舎に響きました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp